

**製品名: E2F1 マウスモノクローナル抗体****カタログ番号: AMM81150**

研究使用のみ

**概要**

説明	マウスモノクローナル抗体
宿主	ねずみ
応用	WB,IHC,ELISA,FC
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	Mouse IgG1
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	0.05%アジ化ナトリウムを含む PBS 中の精製抗体
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:20000,FC 1:200-1:400
分子量	46.9kDa

**抗原情報**

遺伝子名	E2F1
別名	RBP3; E2F-1; RBAP1; RBBP3
遺伝子 ID	1869.0
SwissProt ID	Q01094
免疫原	大腸菌で発現したヒト E2F1 (AA: 69-223) の精製された組み換え断片。

**背景**

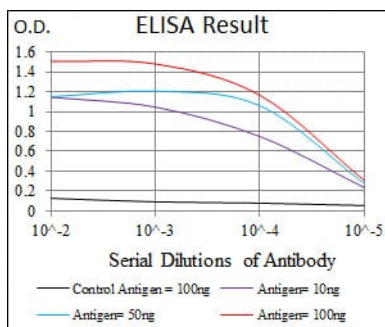
この遺伝子によってコードされるタンパク質は、転写因子の E2F ファミリーのメンバーです。E2F ファミリーは、細胞周期と腫瘍抑制タンパク質の作用の制御に重要な役割を果たしており、小さな DNA 腫瘍ウイルスの形質転換タンパク質の標的でもあります。E2F

タンパク質には、ファミリーのほとんどのメンバーに見られる進化的に保存されたいくつかのドメインが含まれています。これらのドメインには、DNA 結合ドメイン、分化調節転写因子タンパク質 (DP) との相互作用を決定する二量体化ドメイン、酸性アミノ酸に富む転写活性化ドメイン、および転写活性化ドメイン内に埋め込まれた腫瘍抑制タンパク質関連ドメインが含まれます。このタンパク質と他の2つのメンバーである E2F2 および E2F3 は、追加のサイクリン結合ドメインを持っています。このタンパク質は、細胞周期依存的に網膜芽細胞腫タンパク質 pRB に優先的に結合します。細胞増殖と p53 依存性/非依存性アポトーシスの両方を媒介することができます。

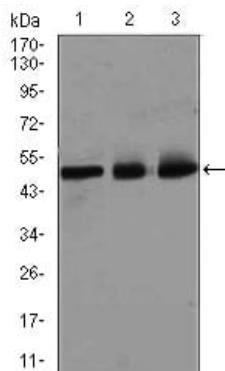
## 研究分野

アポトーシス

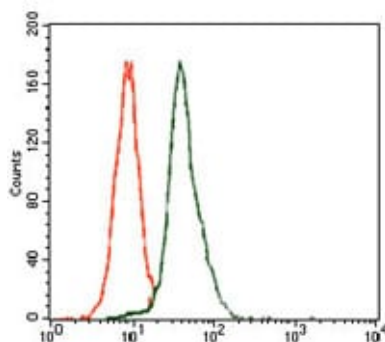
## 画像データ



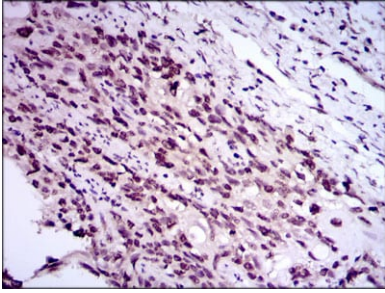
黒線: コントロール抗原 (100 ng); 紫線: 抗原 (10 ng); 青線: 抗原 (50 ng); 赤線: 抗原 (100 ng);



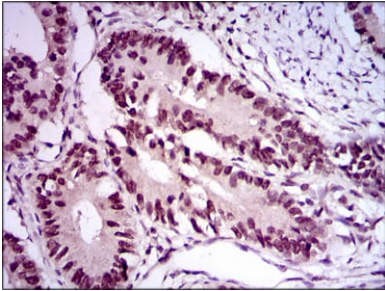
HeLa (1)、SK-N-SH (2)、および NIH3T3 (3) 細胞溶解物に対する E2F1 マウス mAb を使用したウエスタンブロット分析。



E2F1 マウス mAb (緑) とネガティブコントロール (赤) を使用した HeLa 細胞のフローサイトメトリー分析。



E2F1 マウス mAb と DAB 染色を使用したパラフィン包埋ヒト食道癌組織の免疫組織化学分析。



E2F1 マウス mAb と DAB 染色を使用したパラフィン包埋ヒト直腸癌組織の免疫組織化学分析。